

# 命の重みを考え、平和な世界を願って歌い続ける

## 「悪魔の飽食」 富山公演に1200人が集う

6月24日射水市の高周波文化ホールで混声合唱組曲「悪魔の飽食」富山公演(第28回全国縦断コンサート)が開催されました。



333人による合唱 射水市高周波文化ホール 6月24日

混声合唱組曲「悪魔の飽食」とは、第二次世界大戦中に細菌兵器の開発をすすめた旧日本軍731部隊の戦争犯罪を告発し、実験材料として殺された、約3000人以上の中国人、朝鮮人、モンゴル人、ロシア人を追悼しつつ、永遠の平和を祈る合唱組曲(全7曲)です。神戸市役所センター合唱団の委嘱により、原詩・森村誠一氏(作家)、作曲・池辺晋一郎氏(作曲家)の手によって完成し、1984年に神戸で初演されました。

1995年からは、すべての都道府県で演奏し平和の願いを届けようと、全国縦断コンサートが始まりました。富山公演は、その28回目になります。

### 戦争は人を狂わせる 終わった後も

歌は、マルタと呼ばれ生きながら人体実験され殺された人びとが人間としての尊厳を失わまいとする思いや家族を思う悲痛な気持ちがあふれています。また、実験として人を殺すことに、心の痛みを感じなくなっていく医師たちを告発しています。ここにいなかったら人の命を救うことを生きがいとしていたであろう人たちが、戦争によって人格が変えられ戦後も口をつぐむ人間の弱さ、醜(みにく)さも告発しています。

### 333人の大合唱

この取り組みは、開催県で合唱団員を募集し練習を重ね、公演には今まで開催した県から合唱団員が加わり演奏するものです。

富山公演では、富山合唱団52人に全国合唱団281人を合わせ、333人が大ホールの舞台いっぱい並び、作曲家池辺晋一郎氏指揮、ピアノ伴奏清水香里氏で演奏しました。

オープニングでは、大空へ飛ぶが元気なステージをつくり、第一部は富山の自然風景の映像とともに滝沢卓氏のシンセサイザー演奏があり、どちらも好評でした。

### 寄せられた感想

900人近くの観客からは、歌は、強弱で変化をつけ、迫力があつた。「涙が止まらなかつた」感動した。元気をもらった。「マッセージ性がありながら、本格的な合唱曲の演奏だった。」と感想が寄せられました。

### 731部隊・悪魔の飽食とは

旧満州国ハルピンの郊外におかれた関東軍731部隊は、アジア侵略戦争遂行の過程で細菌兵器の開発を進めた。

石井史郎中将を中心に大学から集められた医師たちは、捕虜や抗日運動を行う約3000人以上の中国人、朝鮮人、モンゴル人、ロシア人などを対象に人体実験、生物・細菌兵器の研究・開発、実戦使用を行った。

敗戦時には証拠隠滅・国体護持のため、部隊の設備・資料・捕虜はすべて爆破・処分された。戦後このことは極秘事項とされ、かかわった医学者は戦後日本の医学界の

中枢―大学学長、医学部長、医学界会長などに就任し、何の反省もなく戦後医学界を指導してきた。

作家森村誠一氏は、このことを調査し、「悪魔の飽食」というノンフィクションを発表し、大ベストセラーになった。一時歴史の真実を直視しない人たちがウソと、バッシングを受けたが、731部隊の非道については、1949年12月の「ハロスク裁判の音声記録が見つかり、関東軍がかかわって行われたものである」とが明らかになった。国立公文書館により731部隊員3607名の名簿もつい先日開示された。